

平成11年度試験研究成果

区分	指導	題名	キャベツの5～6月どり越冬栽培技術		
〔要約〕 県中南部の5～6月どりを目的とするキャベツの越冬栽培では、9月上中旬に播種し30日育苗で定植することにより、越冬前の生育量が確保され抽台が回避される。また、品種の選択・組み合わせにより収穫期の幅が拡大される。越冬株率向上のためには、越冬期間中べたがけ資材で被覆するか、または越冬前培土を実施する。					
キーワード	5～6月どり	越冬栽培	べたがけ被覆	園芸畑作部 野菜畑作研究室	

1. 背景とねらい

本県ではキャベツの生産振興を進めているが、その中で県中南部での5～6月収穫を加えたり、レー出荷体制の確立が求められている。そこで、春先の天候に左右されずに作期を設定でき、加温育苗やマルチなどの資材を要せず低コスト生産が可能となる越冬栽培を検討した。

2. 技術の内容

- (1) 播種期は9月上～中旬、128穴セルトレイで30日育苗とするが、適期内で播種期を早めることにより越冬株率が向上する(表1)。
- (2) 本作型に適応した品種は「Y R青春2号」などの春系品種である。これらの品種の組み合わせにより、5月6半旬から6月2半旬までの約15日間の収穫期間が確保される。ただし、3月以降の天候により収穫期が前後する(表2)。

収穫期	品 種
5月6半旬	シティ、春ひかり7号
6月1半旬	Y R青春2号、来陽
6月2半旬	Y R青春

- (3) 越冬後の株落ちを回避するため、積雪前に株元の培土または織布等によるべたがけ被覆を実施する。被覆したべたがけ資材は、3月の融雪後に除去する(表3)。

3. 指導上の留意事項

- (1) 良質堆厩肥や土づくり肥料の投入については慣行栽培と同様に行い、地力の確保に努める。また、越冬株率を高めるためにも排水対策を万全にする。
- (2) 一般に、キャベツは茎径6mm以上で10以下の低温に遭遇すると花芽を生じる。当試験では9月上旬播種で越冬時の茎径が7mmに達した例があったことから、8月下旬以前の早まきは避ける。
- (3) 本試験の施肥量は、県基準である窒素18 燐酸20 カリ18(kg/10a)としたが、生育が再開する3月の追肥に重点を置く。
- (4) 積雪が少ない地域では、強風・凍上害対策として株元の培土とともにべたがけを必ず実施する。べたがけ資材の種類は織布が適すると考えられるが、現在割繊維不織布等も含めてさらに検討中である。
- (5) 結球期以降、腋芽が発生して小玉結球するが、収穫物への影響はないので放任してよい。

4. 技術の適応地帯

県中南部

5. 当該事項に係る試験研究課題

〔野菜3〕-1-(1)-イ (ア) キャベツの5～6月どり作型の確立

6. 参考文献・資料

平成10年度 野菜関係成績書	岩手県農業研究センター	野菜畑作研究室
平成11年度 野菜関係成績書(未定稿)	岩手県農業研究センター	野菜畑作研究室
平成9・10年度 野菜試験成績書	東京都農業試験場	

7. 試験成績の概要

表1 育苗条件と越冬前の生育、越冬状況、収量

試験年次	試験区名	越冬前の生育			越冬株率	収穫期(月・日)	調整重(g)	球径(cm)	球高(cm)	球緊度*1	芯長(cm)
		葉齢	莖径(mm)	(枚)							
H10	9 / 2・41日	9.1	4.1	42	5.25	1450	16.8	14.1	0.51	7.3	
	9 / 13・30日	9.1	1.6	37	5.25	1133	15.5	13.0	0.50	6.5	
	9 / 24・28日	6.0	3.4	25	6.3	1104	16.2	13.4	0.41	5.6	
H11	9 / 5・25日・128	12.6	7.2	74	5.28	951	15.7	12.6	0.49	6.4	
	9 / 15・25日・128	8.3	4.1	68	6.4	994	15.3	13.4	0.50	6.4	
	9 / 5・35日・128	10.2	4.4	71	6.4	1078	15.8	13.8	0.50	7.0	
	9 / 15・35日・128	7.2	3.4	25	6.7	836	14.3	12.6	0.51	5.6	
	9 / 15・35日・ホット	10.3	6.4	61	6.7	1255	16.5	14.1	0.53	7.3	
	9 / 5・25日・200	11.4	6.5	52	5.28	884	14.7	12.2	0.53	6.5	
	9 / 15・25日・200	8.0	4.0	39	6.4	961	15.1	13.2	0.51	6.2	
9 / 15・35日・200	6.2	2.5	22	6.7	668	13.6	12.1	0.47	5.5		

*1 球緊度：球重 / 球体積 *2 理論収量：調整重 × 栽植本数 × 越冬株率

供試品種：Y R 青春2号

育苗容器：128穴セルトレイ

越冬前の生育調査日 平成10年度：H 9.12.16-17、平成11年度：H10.12.3

栽植本数：畦幅60cm 株間30cm (5555株 / 10a)

施肥量(kg/10a)：基肥 9月下旬 窒素12.0 燐酸19.0 カリ12.0

追肥 11月上旬 窒素1.5 燐酸0.3 カリ1.5

追肥 3月中旬 窒素2.25 燐酸0.45 カリ2.25

追肥 4月中旬 窒素2.25 燐酸0.45 カリ2.25

越冬株率向上対策 平成10年度：未実施、平成11年度：2回培土

表2 品種と越冬前の生育、越冬状況、収量

試験年次	品種名	越冬前の生育			越冬株率	収穫期(月・日)	調整重(g)	球径(cm)	球高(cm)	球緊度*1	芯長(cm)	食味		
		葉齢	莖径(mm)	(枚)								甘さ	柔らかさ	総合評価
H10	Y R 青春	9.4	4.7	32	5.29	1166	16.2	13.7	0.54	6.4				
	Y R 青春2号	9.1	4.6	37	5.25	1133	15.5	13.0	0.50	6.5				
	春ひかり7号	9.1	4.8	50	5.20	983	14.9	12.9	0.52	6.7				
	シテイ	8.5	4.9	39	5.25	1482	15.9	13.6	0.47	6.5				
	来陽	8.6	4.4	67	5.25	1285	16.8	13.7	0.51	7.1				
H11	Y R 青春2号	8.3	4.1	68	6.4	994	15.3	13.4	0.50	6.4				
	シテイ	7.6	4.6	68	6.4	1113	14.4	13.7	0.60	6.3				
	春ひかり7号	8.1	4.4	81	6.1	805	14.1	11.8	0.55	5.8				
	来陽	8.4	4.1	61	6.4	1127	16.3	13.6	0.51	6.8				

播種期・定植期 平成10年度：9.13・10.13、平成11年度：9.15・10.10

育苗容器：128穴セルトレイ

越冬前の生育調査日 平成10年度：H 9.12.16-17、平成11年度：H10.12.3

表3 越冬株率向上対策と越冬状況(平成11年度)

試験区名	越冬後の生育		越冬株率	収穫期(月・日)	調整重(g)	球径(cm)	球高(cm)	球緊度*1	芯長(cm)
	草丈(cm)	外葉数(枚)							
培土1回	31.0	14.4	14	6.7	886	14.7	12.9	0.50	5.8
培土2回	32.0	14.0	61	6.4	996	15.1	13.6	0.51	6.8
不織布被覆	31.6	14.2	49	6.4	1153	15.8	14.0	0.53	6.7
織布被覆	28.5	15.3	61	6.4	1413	16.9	15.1	0.53	7.4

供試品種：Y R 青春2号

播種期：9 / 15 定植期：10 / 15

育苗容器：128穴セルトレイ

培土1回：越冬後培土(3 / 12)のみ

培土2回：越冬前(12 / 3)・越冬後培土(3 / 12)

被覆区：培土なし、べたがけ期間(12 / 3 ~ 3 / 12)

べたがけ被覆の供試資材

不織布：「パスライト」(ポリエステル製長繊維不織布 透光率85%)

織布：「ふあふあほっと」(ポリエチレン製織布 透光率77%)